

一般向け勉強会の今後のあり方について

1 今後の方向性

勉強会の参加者は少なかったが、おおむね満足度は高かった。
参加者同士が子育てに関する意見を共有できたことに意味があった。
意見の吸い上げのほか、ネットワークにつながる可能性も感じられた。
平成27年度も引き続き一般向けイベントを数回開催するか？

2 次回に向けた改善点

「勉強会」ではなく、「子育てトーク」のような気軽なイベント名にする。
「子ども・子育て支援新制度」に限定せず、広く子育てに関するテーマを扱う。制度の理解よりも、気軽に話し合い課題を共有することを目的とする。
(例) 「子育てに関わる人材」「子どもの運動」「子どもの食事」
「子どものアレルギー」
対象者は子育て世帯に限定せず、誰でも参加できるようにする。
拘束時間が長いと負担になるので、開催時間は2時間までにする。
事前申込はハードルが高いので、原則当日参加にする。
託児は引き続き用意する(準備の関係で事前申込)。

3 今後の課題

いただいた意見の扱いは要検討。意見は毎回集約しているが、内容は多岐にわたり、すぐに施策に反映することは難しい。

4 その他

イベントの周知の際は、効果的な広報媒体を使用する。
(参考) 町にある広報媒体

媒体の種類	主な利用者
広報紙	高齢者・子育て世帯
ホームページ	40～50代
チラシ(町内回覧)	高齢者・主婦
チラシ(イベント配布)	イベントによる
ポスター(広報板など)	高齢者
パンフレットや冊子	内容による

葉山町『広報の文章表現ガイドライン』から抜粋

(以上)